

仕事の現場

加登 豊 神戸大学 経営学研究科 教授

[講演の概要]

優れたマネジャーを養成するための体系的アプローチの一つに「コンピテンシーモデル」がある。業種や業務によって、必要となるコンピテンシーは異なるという見解もあるが、これまでの調査に基づけば、ビジネスパーソンに必要とされるコンピテンシーは、以下にしめす要素からほぼ構成されているとあってよい。

- 1 情報収集力と情報分析力
- 2 問題発見能力と問題解決能力
- 3 素直に学ぶ謙虚さ（ベンチマーキング能力）
- 4 権限委譲
- 5 コミュニケーション能力（外国語能力を含む）
- 6 大局把握力
- 7 論理構成力
- 8 プレゼンテーション能力
- 9 革新力と学習棄却(unlearning)能力
- 10 高い倫理観
- 11 リーダーシップ
- 12 評価能力

学校教育でこれらの能力をどれほど開発できるか、仕事を通じての学び（OJT: on the job training）で伸ばすことができる能力はなにか、働きながら学ぶ(LBJ: learning by the job)ことの意義などについて、コンピテンシーモデルに関連付けて話題を提供する。あわせて、学校教育が、どのような人材育成を目指しているか、「ゆとり教育」の功罪等についても、他のパネラーと討議を行いたい。

[プロフィール]

神戸大学経営学部卒業。大阪府立大学経済学部助手・同講師・助教授を経て、現職。専門は、管理システム・管理会計・事業創生戦略。製品開発マネジメント、グローバル企業、組織間関係およびVB（ベンチャービジネス）、環境管理会計などを新たな切り口で研究。コロラド大学、サンディエゴ州立大学、オックスフォード大学、ロンドン経済政治大学(LSE)、ゲント大学（ベルギー）等の客員教授を歴任。日本原価計算研究学会会長、日本管理会計学会常務理事、日本ベンチャー学会理事